
平成 24 年 10 月の普及活動状況

～県下 10 農林事務所農業普及課と農業経営課技術支援係の取組～



岐阜県農政部農業経営課

平成 24 年 10 月の普及活動状況ダイジェスト版

活力ある新産地づくり

中濃農林 ■ 円空さといも 円空さといも新規栽培者募集看板を設置

円空さといもの新規栽培者を増やすため、農業普及課では、これまで募集チラシの作成及び配布、JAめぐみの広報誌への掲載を働きかけるなど、取組を行ってきた。

さらに管内の認知度を高めるため、募集PR看板を作成し、関市のさといも団地に設置した。この看板が多くの人々の目にふれることで、円空さといもに関心を持ってくれる人が増え、新規栽培者が増加することを期待している。



【円空さといも新規栽培者募集PR看板】

恵那農林 ■ クリ 「ぼろたん」のぎふ清流国体への提供支援

ぎふ清流国体弁当の食材提供を行うため、農業普及課では、渋皮がむけるクリ「ぼろたん」の一次加工支援を行った。

9月26・27日と10月11日の3日間をかけ、生産者を含む延べ50名で約150kgの「ぼろたん」の渋皮をむいたのち、弁当業者へ納品した。弁当業者で煮物にし、国体参加者に提供された。

農業普及課では、一次加工の試作から加工当日の進行管理の支援を行い、滞りなく加工を行うことができた。

この他にも、ぎふ清流国体開会式のおもてなし広場、レセプションやレスリング会場での「ぼろたん」焼き栗の提供や、弓道会場での生果販売の支援を行った。

ぎふ清流国体でのおもてなしを通じ、東美濃クリ産地の「ぼろたん」を県内外の国体参加者にPRすることができた。



【ぼろたん一次加工の状況】

売れる農畜産物づくり

岐阜農林 ■ ブロッコリー 栽培面積拡大

岐阜管内ではブロッコリーの定植は、天候不順で一部作業で遅れが出たものの10月3日に完了し、栽培面積がまとまった。今年度は、移植機の利用が進み定植作業が省力化され、栽培面積が前年の17.5haから21.5haへ増加した。

農業普及課では、移植機の利用に向けて、移植機で使用するセル苗の管理方法等について支援してきた。

今後は、施肥方法の改善や優良品種の選定等により商品率の向上に取り組み、ブロッコリーの生産拡大に取り組んでいく。



【移植機による定植の様子】

西濃農林 ■ トマト 海津トマト部会で平成25年産の栄養診断を開始

海津トマト部会では、植物体の硝酸態窒素濃度を定期的に測定し、その結果に基づくタイムリーな肥培管理を開始して約5年が経過し、新規栽培者、若手生産者を中心に単収が大きく増加している。

このような中、今年の1月に先進地を視察した所、硝酸態窒素濃度に加え、リン酸やカリの栄養診断を実施していた。そこで農業普及課では部会とともに、今年から高単収者のリン酸、カリを測定し、基準値の設定に取り組んでいる。今年度の結

果を、平成 25 年産から窒素、リン酸、カリの栄養診断に基づく施肥管理に活用する予定である。

揖斐農林■大麦 麦茶用品種「さやかぜ」に全面切替え

揖斐川町谷汲地区では、約 50ha で大麦が栽培されている。昨年まで品種は「ミノリムギ」であったが、実需者からの要望を踏まえて、平成 25 年産から麦茶用高タンパク質品種「さやかぜ」に全て切替えた。

このような中、10 月 2 日に J A いび川が、栽培研修会を開催した。

研修会では、全農岐阜から大麦に関する情勢報告が行われた後、農業普及課から「さやかぜ」の栽培暦の提供と高タンパク質を目的とした肥培管理、栽培管理について説明した。揖斐管内では、「さやかぜ」の栽培について手探りの部分もあるため、農業普及課では実証ほを設置し栽培技術を確立していく。



【栽培研修会に参加した生産者】

郡上農林■夏秋トマト トマト生育調査

今年度のトマト栽培がおおむね終了した。農業普及課では、初期生育が不良であった生産者のほ場で、根や着果数などの調査を行った。

特に根については、根がコルク化するコルキールート等の病害の発生状況や根張り等の状況を確認した。

その結果、初期生育が不良であったほ場では、根量が少なく、一部ではコルキールートを確認した。

今後、調査結果を分析し、個別面談で台木の変更や土壌消毒の実施など、次年度に向けての改善点を指導する予定である。



【根の状況】

可茂農林■大豆 現地確認・検討を実施

管内では、大豆が、今年度約 99ha で栽培され、中山間地域では「タチナガハ」(23ha)、平坦地域では「ユクユタカ」(76ha)がそれぞれ主力品種となっている。

このうち、「タチナガハ」は、成熟期～収穫期を迎え、10 月 16 日から収穫作業が開始されている。

10 月 18 日に白川町で農業経営課、農業技術センター、中山間農業研究所中津川支所とともに、白川町で摘心処理による青立ち対策の実証ほの生育状況について確認し、検討を行った。

農業普及課では、生育調査、収量調査結果のとりまとめ・分析を行い、次年度の栽培に向け J A めぐみのと協議・検討を行う予定である。



【生育状況の確認】

下呂農林■飼料作物 水稻 WCS 給与試験開始

農畜連携の取り組みとして、金山町東地区で 8 月下旬に収穫とラッピングを行った水稻 WCS について、榑佐古牧場の繁殖牛に対する給与試験を開始した。

サイレージの発酵状態は良好で、畜産農家の評価も高く、牛の食欲も旺盛であった。

農業普及課では、畜産研究所酪農部へ WCS のサンプルを持ち込んで情報交換するとともに、栄養分析（組蛋白質等一



【畜産農家による WCS の確認】

般分析、 β カロチン分析) 依頼をした。今後、その分析結果を待つて次年度の生産計画樹立を支援する。

飛騨農林 ■ ほうれんそう **ダゾメット微粒剤によるコナダニ防除の普及**

難防除害虫であるハウレンソウケナガコナダニに対し、農業普及課では、昨年からダゾメット微粒剤による防除を推進している。これは秋にダゾメット微粒剤を処理し、春の被害を避ける技術である。中山間農業研究所で本技術を実証した後、農業普及課で実証ほを設置して高い効果を確認できたため、ダゾメット微粒剤による防除を普及している。昨年に比べて効果に対する信頼性が高く、今年は、より多くの生産者(50戸、20ha)が実施する見込みである。

※ダゾメット微粒剤：土壤消毒剤の一つ。土壤に散布後、水分と反応してガス化し、土壤病原菌、一年生雑草、ハウレンソウケナガコナダニ等、死滅させる。

農業経営課 ■ 飼料用稲 **WCS用稲生育状況を調査**

8月から10月にかけて、畜産課及び(社)岐阜県畜産協会とともに、飼料用稲(WCS用)の生育状況及び収量調査を行った。

今年度の生育は、台風等の気象災害もなく良好であった。収穫時期は、栄養価の高い黄熟期に収穫することが望ましいが、給与する畜産農家の希望に沿って乳熟期とした農家や、作業行程が遅れ完熟期となった農家が見られるなど、差が見られた。完熟期の収穫は、栄養価が下がり、品質が低下するため、特に刈遅れた農家に対して、適期収穫を指導した。

この他、来年度にむけて、さらに高収量高品質の稲WCSを収穫するため、次期の肥培管理や収穫調整方法について指導した。



【WCSの収穫風景】

多様な担い手の育成・確保

東濃農林 ■ 新規就農者 **トマトポット耕栽培を開始**

多治見市の新規就農者(I氏)が、資金を活用してトマトポット耕栽培施設(13a)を新設し、10月14日から定植を開始した。2ヶ月ほど遅い定植となったが、定植後は順調に生育が進んでいる。

管内では、初めての冬春トマト栽培で、栽培システムも従来と異なるポット耕栽培であり、技術面で助言できる農業者もいない中、農業普及課では、自己施工によるベンチ設置や育苗などの支援を行ってきた。

多治見市では、野菜の施設栽培面積が少ないため、このポット耕栽培は地域でも注目されており、新たな就農モデルとして成功できるよう、継続的な支援を行っていききたい。



【新規就農者とポット耕トマト】